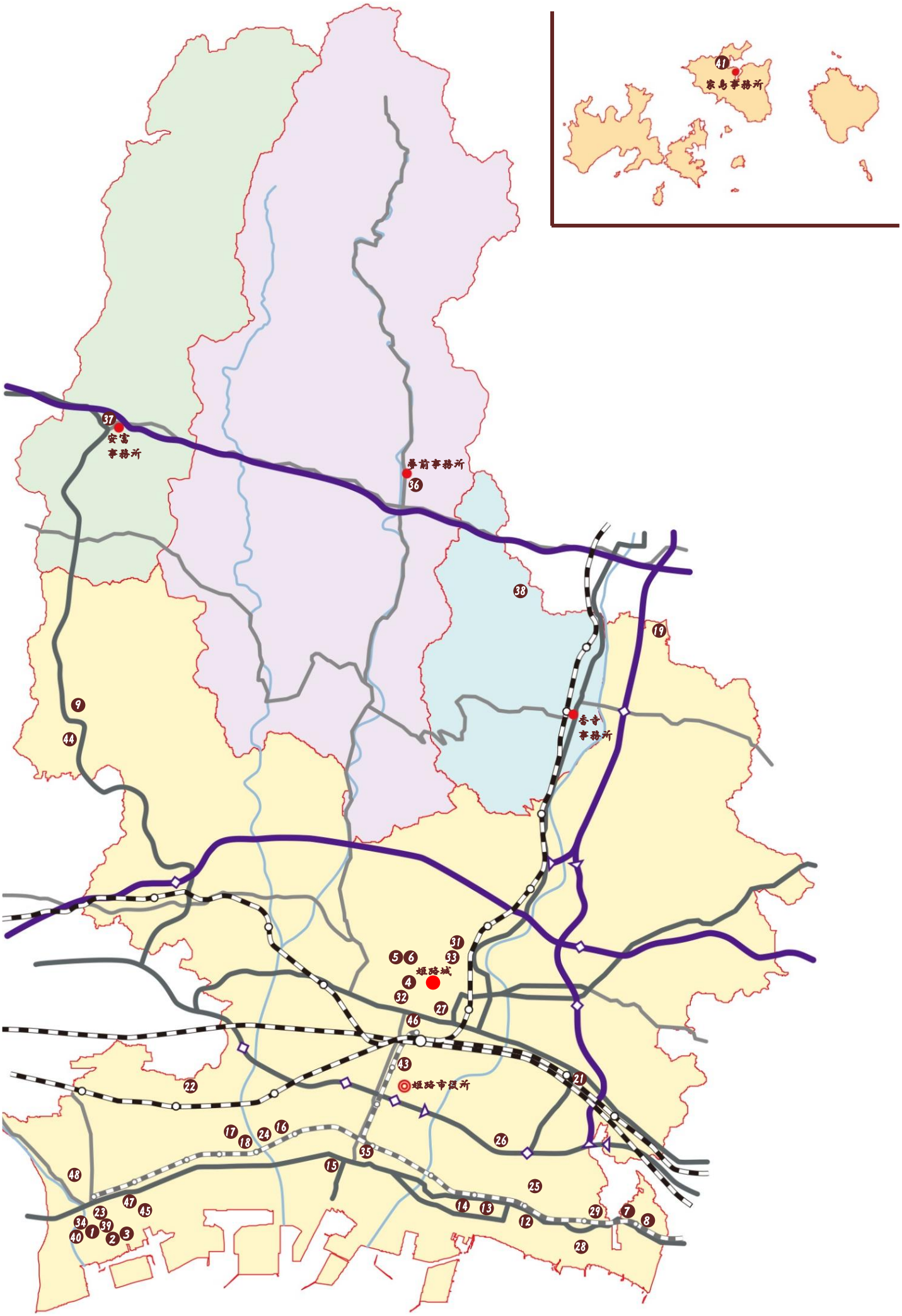
2026.10 発行

姫路市都市景観重要建築物等

姫路市では、都市景観形成上重要な価値がある建築物、工作物、樹木等を都市景観重要建築物等として指定しています。（建物内部非公開）


41
家島事務所
37
安富
事務所
夢前事務所
36
38
19
9
44
香寺
事務所
51
5
6
33
姫路城
4
32
27
46
43
姫路市役所
22
21
17
18
24
16
26
35
15
48
25
47
45
23
34
39
40
1
2
3
14
13
12
29
7
8
28

第１号　山本家住宅

所　在　地　網干区興浜
指定年月日　平成元年７月１日
建 築 年 代　明治初期、大正７年（1918）

網干銀行頭取や町長を務めた山本真蔵によって建築。土塀越しに見える３階建て黒塗りの望楼風の塔は、伝統的な町並みにあって一際高く、上げ下げ窓や鎧戸などの洋風の要素を持ち、伝統的な白壁のつし２階建ての主屋と対比し、強い印象を与えている。

第２号　外国人技師住宅（旧図書館）

所　在　地　網干区新在家
指定年月日　平成元年７月１日
建 築 年 代　明治 43 年（1910）

旧図書館、クラブハウスともに、明治 41 年に創設された日本セルロイド人造絹糸株式会社の技術指導を担当した外国人技師の住宅として建築。通天閣や神戸の聚楽館を手掛けた設楽建築工務所の設計で、新しい傾向を積極的に取り入れた思い切ったデザインが特徴。

第３号　外国人技師住宅（クラブハウス）

所　在　地　網干区新在家
指定年月日　平成元年７月１日
建 築 年 代　明治 43 年（1910）

様式は 19 世紀末のイギリスのコテージに類似する意匠も散見されるが、下見板張りや竪羽目板張りの外装などはアメリカのコロニアル・スタイルと共通する点が多い。１辺約 10mのほぼ矩形の平面に対し、切妻、寄棟、半寄棟が合わさった多彩な屋根形状を持っている。

第４号　森家住宅

所　在　地　材木町
指定年月日　平成２年８月 30 日
建 築 年 代　明治 19 年（1886）

姫路城の西の外濠にあたる船場川西岸に建ち、外観は平入りつし２階建てで白漆喰の壁や本瓦、虫籠窓、木格子など姫路の町家の特徴をよく残している。この住宅の建つ材木町界隈は、船場川を利用し、高瀬舟による物資の運送で財をなした材木問屋などが立ち並んでいた。

第５号　旧姫路高等学校講堂（兵庫県立大学）

所　在　地　新在家本町一丁目
指定年月日　平成２年８月 30 日
建 築 年 代　大正 15 年（1926）

大正 12 年に設立された旧制姫路高等学校の講堂として、本館とともに大正 15 年に建設され、現在も同じ用途で用いられている。講堂・本館ともに木造下見板張り、ペンキ塗り仕上げで、ほぼ同じデザインで処理されているが、建物の性格から講堂の方が素材もよく、作りも細かい。

第６号　旧姫路高等学校本館（兵庫県立大学）

所　在　地　新在家本町一丁目
指定年月日　平成２年８月30日
建 築 年 代　大正15年（1926）

姫路環境人間キャンパスの敷地南側に建つ講堂・本館は、正門にアクセスする南北道路の正面に位置し、楠の大樹とともに効果的なランドマークとなっている。当時の建築技術をリードした文部省の内部組織により設計され、手堅さの中に日本的なモチーフが混入されている。

第７号　梶原家住宅（西梶原）

所　在　地　大塩町
指定年月日　平成３年12月９日
建 築 年 代　19世紀前期

江戸時代には塩田主で塩回送業を、明治時代には酒屋、油屋を営み、その繁栄がしのばれる。屋敷地は大塩で最大の面積を占め、居住面積も市域最大で、茶室５席を有している。主屋は19世紀前期に、高砂のオニゴン邸を西梶原と中梶原の二家に分けて移築したと伝えられている。

第８号　赤鹿家住宅（旧山本家住宅）

所　在　地　大塩町
指定年月日　平成３年１２月９日
建 築 年 代　正徳３年（1713）

大塩町は江戸時代から塩田が盛んな地域で、当家も古くから塩田主として栄えた。市域の庄屋や豪農の家では茶室を設けることが通例であるが、中でも大塩では茶室の設置が顕著に認められ、当家も表千家残月邸写しの西茶室と繊細な意匠を持つ数寄屋風の北茶室を持っている。

第９号　長谷川家住宅

所　在　地　林田町六九谷
指定年月日　平成５年３月１日
建 築 年 代　弘化５年（1848）

ヤエガキ酒造の当主で、弘化年間に本家から酒造業を引き継ぎ当地に居を構えた。姫路から鳥取に向かう因幡街道に沿って建ち、間口９間半におよぶ長大な主屋は、出格子や格子の小窓などが並び、屋根も徐々に落棟となってリズミカルな外観を構成している。

第12号　三木家住宅

所　在　地　八家
指定年月日　平成５年７月28日
建 築 年 代　19世紀中期

江戸時代に「苫屋」の屋号で製塩業を営んだ本家から分家し、中三木と呼ばれていた。外観は平入りのつし２階建てで、１階の出格子、出し桁で支える桟瓦の庇、つし２階部分の出格子に虫籠窓、左右両端の袖壁、大屋根の本瓦と近世以来の伝統的町家形式をよく残している。

第 13 号　河野家住宅

所　在　地　白浜町丙
指定年月日　平成７年３月１日
建 築 年 代　18 世紀後期

灘のけんか祭りで有名な松原八幡神社から 400m 東に位置し、町家形式の主屋から西側の庭を囲む高い塀が連なる。主屋の玄関部分は出格子で太格子と細格子が交互に配されており、つし２階部分は薄墨色の漆喰壁で、ぼけ型の虫籠窓と垂木は白漆喰で塗り込めてある。

第 14 号　濱野家住宅

所　在　地　白浜町甲
指定年月日　平成７年３月１日
建 築 年 代　19 世紀後期

松原八幡神社氏子区域の松原にあって、周囲の古い建築群とともに落ち着いた町並みを形成している。「鍛冶勘」という屋号で近年まで鍛冶業を営んでいた。外観は平入りのつし２階建て本瓦葺き入母屋造りで、１階は腰壁から上は黒漆喰塗り、２階は白漆喰塗りとなっている。

第 15 号　中島家住宅

所　在　地　飾磨区天神
指定年月日　平成８年２月５日
建 築 年 代　文政６年（1823）

江戸時代から松前船による海産物問屋を営み栄えた。主屋は、江戸時代以来の古い町家が多く残る旧浜街道周辺にあって、間口６間、奥行き６間半とひときわ規模が大きい。敷地内には米蔵と大庄屋の置塩家から移築されたという豪勢な材料を用いた上質の土蔵を配している。

第 16 号　大澤家住宅

所　在　地　飾磨区中浜町一丁目
指定年月日　平成８年２月５日
建 築 年 代　19 世紀中期

戦国大名三木家の居城・英賀城の敷地内にあたり、周辺には多くの石碑や伝説が残る。旧浜街道に面して幅４m程の庭を設け、奥に 19 世紀中頃の高い大工技術による町家風の主屋を構える。外観は平入りのつし２階建て、入母屋造り、本瓦葺きで土間の上に越屋根を置いている。

第 17 号　田中酒造場

所　在　地　広畑区本町三丁目
指定年月日　平成８年８月５日
建 築 年 代　19 世紀中期

江戸時代以来この地で酒造業を営み、過去帳では享和２年(1802)まで遡ることができる。街道に面して建つ黒漆喰塗込めの主屋から桟瓦葺きの土塀が続く。また、主屋の裏側に２棟の酒蔵が棟方向にほぼ直線的に並び、変化のある町並み景観を形成している。

第 18 号　住本家住宅

所　在　地　広畑区末広町三丁目
指定年月日　平成８年８月５日
建 築 年 代　明治中期

夢前川西岸からほど近い集落にあり、西側は入母屋、東側は切妻の本瓦葺き木造つし２階建てで、土間の上には越屋根が架けられている。現代的な生活に対応するための改修が部分的に行われているが、広い土間や納戸を持つなど、家業である農業と素麺造りに対応した家造りがされている。

第 19 号　岡庭酒造場

所　在　地　船津町
指定年月日　平成 10 年 11 月 20 日
建 築 年 代　明治初期

酒造りは、万延元年(1860)、姫路藩の薬用人参の試作係として岡庭小兵衛が選ばれたことに遡り、人参栽培の副業として明治５年より始まった。銀の馬車道に直接面し、南から順に長屋門、塀、昔の店部分、蔵、南蔵、中蔵、新蔵が建ち並び、田園風景の中に優れた景観を呈している。

第 21 号　小原家住宅

所　在　地　御国野町御着
指定年月日　平成 10 年 11 月 20 日
建 築 年 代　19 世紀前期

古絵図によると敷地は室町から戦国期の御着城の敷地に含まれ、絵図記載の井戸が裏庭に残っている。主屋は土間より東のつし２階建て部分と、土間より西の本２階建て部分からなる。当初は医院として使用されていたようで、建物中央にある土間より東の部分は医院の待合室や薬局があった。

第 22 号　京見会館

所　在　地　広畑区京見町
指定年月日　平成 12 年 1 月 31 日
建 築 年 代　昭和 16 年（1941）

日本製鉄京見社宅の社交場として、F.L.ライトの下で修行した遠藤新の設計により、昭和 16 年に建てられた。太平洋戦争へと戦局を拡大していく時点の建物であり、資材統制の影響により純木造建築となっている。内部は重厚な木質感を持つ空間が連続し、遠藤の作風が感じられる。

第 23 号　旧網干銀行本店　湊倶楽部

所　在　地　網干区新在家
指定年月日　平成 12 年 1 月 31 日
建 築 年 代　大正後期

大正 10 年に設立された網干銀行の本店として建設された。円形に処理された北西隅の頂部に載る葱坊主型のオジー・ドームがこの建物を特徴付けている。セセッションと呼ばれる形式に基づく簡略化された装飾により、抑制の中にも適度な華やかさが見られる。

第 24 号　井上家住宅

所　在　地　飾磨区英賀東町二丁目
指定年月日　平成 13 年 12 月 19 日
建 築 年 代　不詳

英賀城を治めた三木氏の一族である市庭家の豪壮な邸宅「市庭館(1480 年築)」の跡に、井上家住宅は位置する。典型的な庄屋農家の外観を残しており、旧飾磨街道から英賀神社に至る細街路に面する主屋と土蔵の竪板張り壁と築地塀が歴史を感じさせる。

第 25 号　岡本家住宅

所　在　地　東山
指定年月日　平成 13 年 12 月 19 日
建 築 年 代　明治中期

近世後期に姫路藩が木綿の専売制を実施し、東山村でも綿栽培や綿紡、木綿織りが盛んに行われた。岡本家住宅は、綿屋仲三郎が慶応年間に宇佐崎村で建てたものを明治中期にこの地に移築したもので、黒漆喰の重厚な外観は、往年の木綿産業の興隆を今に伝えている。

第 26 号　清水家住宅

所　在　地　奥山
指定年月日　平成 14 年 11 月 28 日
建 築 年 代　明治 38 年（1905）

麻生八幡神社の門前集落にあたる奥山に位置する農家住宅で、参道に面して全長 35mの築地塀が続いている。築地塀と門、土蔵がバランスよく連続しており、塀越しに見える大屋根や北に隣接する屋台蔵とあいまって上質な農村景観を今に伝えている。

第 27 号　ＮＴＴ兵庫支店姫路２号館

所　在　地　総社本町
指定年月日　平成 14 年 11 月 28 日
建 築 年 代　昭和５年（1930）

姫路郵便局電話事務所として建設されたもので、外観は落ち着いた色の二丁掛けスクラッチタイルと端正な水平垂直線で構成されるモダニズムデザインで、昭和初期の雰囲気をよく伝えている。戦時中は、空襲の標的になることを避けるため、コールタールが塗付されていた。

第 28 号　中村家住宅

所　在　地　的形町的形
指定年月日　平成 15 年 12 月 17 日
建 築 年 代　明治５年（1872）

当初は千石船を所有する廻船問屋で、その後塩田主となった家屋で、的形川に沿った細い道路を抜けたところに、日本家屋独特の瓦屋根の重なりを見せる。外周は杉焼き板の黒塀が巡り、そこに木地の細かい出格子が幾つか設けられた意匠が、落ち着いた雰囲気を醸し出している。

第 29 号　岡田家住宅

所　在　地　的形町的形
指定年月日　平成 15 年 12 月 17 日
建 築 年 代　明治 38 年（1905）

岡田家の初代は、江戸末期における今真流釵術の師範で、大地主の分家であった。背後の小さな丘の緑に、幾棟もの黒い瓦屋根、白い漆喰壁及び板塀が映える。長屋門と４棟の蔵や離れをつなぐ塀には、八角形の小窓がリズミカルに配置され、屋敷の閉塞感を和らげている。

第 31 号　魚橋呉服店

所　在　地　威徳治町
指定年月日　平成 17 年 10 月 24 日
建 築 年 代　明治期

野里街道に面する現役の呉服店で、主屋は南北２棟からなる。南側は米屋として増築されたつし２階建て本瓦葺きの町家形式だが、北側は自然光を取り入れるための大きな吹き抜けや、広い土間に配された畳敷きの店の間など、呉服店としての特色を持った造りとなっている。

第 32 号　初井家住宅

所　在　地　龍野町一丁目
指定年月日　平成 17 年 10 月 24 日
建 築 年 代　江戸末期

旧西国街道に沿って栄えた龍野町に位置し、主屋は町家形式の東棟と総２階に望楼を乗せた書院造りの西棟が一体となっている。また、北原白秋門下の歌人・初井しづ枝の婚家として知られ、書斎として使われた主屋西側の広縁は姫路文学館に模型が展示されている。

第 33 号　大野家住宅

所　在　地　大野町
指定年月日　平成 18 年 10 月 17 日
建 築 年 代　明治期以前

野里街道に面し、元禄時代から「鍋市」の屋号で鋳物屋を営んでいた。主屋の間口は６間半と大きく奥行きも８間を測り、２階のつし部分には３カ所の虫籠窓が設けられている。１階部分はギャラリーに改装され、様々なイベントの開催など、まちづくりの拠点となっている。

第 34 号　加藤家住宅

所　在　地　網干区余子浜
指定年月日　平成 18 年 10 月 17 日
建 築 年 代　江戸末期

天領から流下する年貢米の納収、保管、売却を行う蔵元であった。また、「成田屋」の屋号で廻船業を営むとともに、屋敷に工場を併設した醤油業を興し、明治から大正にかけて最盛期を迎えた。長屋門や大屋根の主屋が向かいの船渡八幡宮と美しく調和している。

第 35 号　今村家住宅

所　在　地　飾磨区玉地
指定年月日　平成 19 年 8 月 29 日
建 築 年 代　明治期

「三宅屋」の屋号で、卸商として江戸期から陶器類を野田川を使って輸送していた。東側外観は、内蔵と出格子のある主屋に板塀と門が続き、歴史的な景観を形成している。元水路であった西側の路地には、当時小舟から直接出入りができた４棟の蔵が建ち並んでいる。

第 36 号　壺坂酒造場

所　在　地　夢前町前之庄
指定年月日　平成 20 年 10 月 3 日
建 築 年 代　文政年間

文化２年(1805) からこの地で酒造りが始まり、その建物が現在の本蔵であり、柱や梁のチョウナ跡がその古さを物語る。堂々とした屋根を持つ主屋と連続する多くの蔵、酒造場のシンボルである煉瓦煙突が一体となって地域の歴史的な風情を醸し出している。

第 37 号　下村酒造場

所　在　地　安富町安志
指定年月日　平成 21 年 10 月 1 日
建 築 年 代　明治 17 年（1884)、大正期

因幡街道沿いの安志の集落に建つ造り酒屋で、平入りの屋根と格子、黒漆喰の壁に虫籠窓をもつ主屋が道筋に面し、周囲の伝統的な建物と共に歴史的な町並みを形成している。明治 17 年(1884)の創業時に建築された酒蔵が今も残り、瓦葺の大屋根が周囲の町並みから一際高くそびえている。

第 38 号　橋本家住宅

所　在　地　香寺町恒屋
指定年月日　平成 23 年 2 月 10 日
建 築 年 代　明治末期

香寺町北恒屋の谷間に開けた田園風景の中にあり、桁行の長い長屋門、緩やかな曲線の土塀、背の高い本蔵が連続し、その奥には大きな入母屋屋根が顔を覗かせている。背景の城山と前面の田畑と相まって、本市を代表する田園集落地景観を形成している。

第 39 号　片岡家住宅

所　在　地　網干区新在家
指定年月日　平成 23 年 10 月 17 日
建 築 年 代　18 世紀初期

龍野藩南組の大庄屋を永く務めた家であり、明治まで近在５か村にまたがる地主であり、塩田も所有していた。その家柄にふさわしく、主屋は間口７間にも及び、奥行きも６間半を測る大型の町家である。道路側の外観は小さな虫籠窓をもつ軒の低い古い形式を良く残している。

第 40 号　旧水井家住宅

所　在　地　網干区興浜
指定年月日　平成 23 年 10 月 17 日
建 築 年 代　大正 11 年（1922）

戦前まで材木問屋を営んでいた。材木問屋らしく屋敷構えは豪壮で、主屋は高い板塀で囲まれ、前庭を有している。東の端には門を配し、西橋は土蔵が土塀に連なっている。その総間口は約 13 間を測り、階高の高い黒漆喰塗り込めの主屋とともに、存在感を示している。

第 41 号　細野家住宅（旧細野組本店）

所　在　地　家島町真浦
指定年月日　平成 24 年 6 月 18 日
建 築 年 代　明治末期

播磨灘に浮かぶ家島諸島の本島真浦に建つ民家で、石材商、土木建築請負業細野組本店として建築された。建物は、真浦の中心の通りに面し、通りに離れの瀟洒(しょうしゃ)な入母屋の屋根を見せ、庭を介して奥に総二階の主屋が控えている。

第 43 号　寶角家住宅

所　在　地　安田二丁目
指定年月日　平成 27 年 1 月 29 日
建 築 年 代　明治 23 年（1890）

飾磨街道沿いに建つ民家で、大正初期まで木綿や麻などを扱う太物問屋を営んでいた。虫籠窓の墨色が、壁面の白漆喰とコントラストとなり、建物全体に統一感と町屋しての風格を与えている。飾磨街道が銀の馬車道の一部として利用されていた頃の様相を残した希少な建物である。

第 44 号　段家住宅

所　在　地　林田町林田
指定年月日　平成 27 年 11 月 30 日
建 築 年 代　大正 12 年（1923）

林田藩陣屋跡や因幡街道に隣接した民家で、平成 10 年まで医院を営んでいた。医院としての公的な領域は主屋の東側に、居宅としての私的な領域は西側に分かれ、機能的な配置をしている。周囲の伝統的な建物等とともに歴史的な景観を形成している重要な建物である。

第 45 号　松田家住宅

所　在　地　大津区吉美
指定年月日　令和 6 年 1 月 23 日
建 築 年 代　明治 44 年（1911）

近世は林田藩の飛地であった大津区吉美で、大津茂川に面して建っている。大津茂川の舟運により薪炭問屋を営むほか、塩田・新田の経営を行っていた。主屋の妻面は東西、新座敷の妻面は南北に向け、いずれも入母屋だが外観に変化を持たせている。舟運で栄えた往時の風景を今に残す貴重な建物である。

第 46 号　旧第三十四銀行姫路支店（今井内科）

所　在　地　坂元町
指定年月日　令和７年６月１７日
建 築 年 代　大正６年（1917）～大正 10 年（1921）

江戸期から明治期に至り、姫路の繁栄の核となる界隈にあり、明治期以降の地域の経済金融界の足跡を表している。また、昭和戦前期からの医院としての存在は昭和戦前期の医院建築の姿をとどめ、地域の医療や保健衛生史の記憶の観点からも貴重な建築物である。

第 47 号　土井家住宅

所　在　地　大津区平松
指定年月日　令和７年６月１７日
建 築 年 代　明治後期

大津区平松は新宮藩の飛地であり、大津茂川から入り江を設けた船溜まりを通じて交易に重用された。建物はこの船溜まりに面して建っていた。現存はないが、船溜まりを経て、大津茂川から瀬戸内につながる往時の記憶をとどめ、明治から大正に至る暮らしの様子を感じさせ、地域の歴史的な街並み景観の要になっている。

第 48 号　旧八木家住宅（徳栄寺こども園）

所　在　地　余部区下余部
指定年月日　令和８年１０月１４日
建 築 年 代　江戸後期

市内でも最大級の大庄屋の屋敷であり、建物に加えて土塀や保存樹で構成される建造物群としての住宅や庭園は、大庄屋時代からの歴史や文化をよくとどめている。「主屋」「長屋門」は丁寧に再生され、現在こども園として公共性の高い利用がなされており、地域のシンボルとなっている。

検索　姫路市　都市景観重要建築物等

https://www.city.himeji.lg.jp/shisei/0000007231.html

発　行

姫路市都市局まちづくり部まちづくり指導課

都市景観担当

〒670-8501　姫路市安田四丁目１番地

ＴＥＬ　079-221-2541・2542